

# 森のニュース 3

## 平成22年度治山林道施策と予算について

### はじめに

神奈川県森林協会会員の皆様には、日ごろから神奈川県の森林・林業行政の推進に多大なるご支援、ご協力を賜り、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、本県の平成22年度予算は、長引く景気低迷による厳しい経済・雇用情勢から、県財政も過去に例を見ない1250億円の財源不足となり、「県庁改革基本方針」のもと聖域を設けることなく、あらゆる施策や事業をゼロベースで見直し、優先度の高い施策・事業に財源を配分する「大胆な選択と集中」といった予算編成がなされました。

また、国の公共事業を取り巻く状況も、政権交代により「コンクリートから人へ」の理念に沿った見直しがなされ、林野公共事業も対前年比71.7%とかつてない厳しい規模となりました。

### 平成22年度治山・林道事業予算について

こうした状況のなか、平成22年度治山・林道事業予算は、総額24億1千万円、対前年比84%が配分され、治山費が12億5千万円、林道費が10億9千万円と、それぞれ前年対比76%、107%となっています。

治山費においては、治山事業（公共）が10億5千万円、治山事業（単独）が2億6千万円配分され、県下64箇所、うち新規17

箇所で行山対策を実施します。

主な新規箇所としては、伊勢原市大山（南沢）の大山阿夫利神社下社周辺の荒廃林地において、ヘリコプター運搬を使用した復旧に取り組みます。また、相模原市緑区又野（大沢川）では、津久井湖岸の山腹崩壊防止対策に着手し、山北町中川（箱根屋沢）では、県道を保全対象とした治山施設機能強化事業を新たに導入し実施します。

また継続箇所として、箱根町元箱根（蛇骨川上流）において、平成14年・17年に発生した大規模な地すべり災害に対する復旧や、相模原市緑区青根（日蔭沢下流）における平成19年の台風により荒廃した溪流の復旧など、被災森林の早期復旧等に取り組みます。



（平成21年度日蔭沢下流治山工事）

林道費については、林道開設等の公共事業が7億1千万円、林道改良等の単独費が3億8千万円配分され、市町村営林道3路線を含む24路線で事業を実施します。

重点事業として、平成19年1月から通行止めになっている山北町玄倉の県営林道玄倉線2号隧道の付替工事について、平成23年度開通に向け集中的に取り組みます。



（平成21年度宮城野林道開設工事）

また、相模原市緑区青根の県営林道神の川線では、計画的に落石危険箇所を解消するため、継続した林道改良に取り組みます。

林道開設事業としては、箱根町町宮城野の県営林道宮城野線ほか2路線、総延長1165mの新設に取り組みます。また市町村営林道整備事業については、伊勢原市営大山線、相模原市営奈良本線、寺入沢線の3路線について舗装等に補助します。

### おわりに

平成22年度の治山・林道予算は、政府の公共事業に対する配分の考え方を見直しにより大幅に減額されましたが、治山は、昔から「治山治水は政治の基本」といわれるほど重要な事業であり、また林道は、木材生産や森林再生の取組みに欠かせない重要な施設であります。

今年度以降も国・県の厳しい財政状況が予想されますが、県として治山・林道事業については、緊急度、優先度を勘案し、必要な箇所を適切に実施してまいりたいと考えております。

今後とも会員の皆様には、治山・林道事業の着実な推進にご支援賜りますようお願い申し上げます。  
（環境農政局 水・緑部 森林再生課 基盤整備グループ）